

日頃から皆様方におかれましては、住民の人々の先頭に立って日夜奮闘されておられることに対し、心から敬意を表したいと思えます。

我が国の町や村は、それぞれの地域の文化や歴史に根ざし、また農林水産業などをベースに国土の保全や自然環境の保護などの面でもたいへん大切な役割を果たしてまいりました。しかし、合併の推進など、最近の町村を巡る状況というのは、大変厳しいものがございます。他方、行政面積が広がって、しかも過疎地域が大部分です。その上に三位一体改革で地方交付税が大幅にカットされるなど、地方財政は厳しい状況にあります。しかし、やらなければならない仕事が減少するかと言えば、むしろ増えています。住民サービスの低下をもたらしかねない、そのような状況にあります。

それぞれの地域でも、子供の保育や教育、医療や高齢者の福祉、あるいは生活や産業基盤の整備、地域に根ざした産業の振興など、高齢化が進み、地域の格差が広がる中で、皆様のご苦勞も非常に多いことと存じます。

そうした中で、皆様方は住民へのサービスの充実をどうしたらいいのか、豊かな魅力あるまちづくりをどのように進めるか、大変なご努力をされていると存じます。このようなご努力に国はしっかり応えていかなければならないと思えます。

衆議院におきましても、平成5年に「地方分権の推進に関する決議」を全会一致で行いました。これは国と地方の役割を見直し、国から地方への権限移譲、地方税財源の充実・強化など、地方公共団体の自主性・自立性の強化を図ると、極めて正しい指摘をした決議でございます。15年前の決議ですが、残念ながらこの決議、まだまだ実現するに至っておりません。この決議を本当に実現できますように、地方の視点を大事にしながら、地方自治のさらなる充実と発展に国会としても寄与していきたいと考えております。

だいぶ昔になりますけれども、ある結婚式で町長さんと一緒になったことがございます。私の地元、北海道札幌の話ですけれども、町長さんにおめでとうございませうと言ったら、その町長さんは「いやそう言いたくはないんだ」とのことです。その結婚式は自分の町の娘さんが札幌の男性と結婚するという結婚式でした。町長さん曰く、自分の町にだって男性はいるし、しかも娘さんは農家の一人娘で、彼女が嫁い

でしまったら、あの農家はどうなるのか。人口も減るし、心配だと、顔では笑っているけれども、心では泣いているんだというお話をされたことがございます。その時私は、町村長の皆さんはこういう思いで仕事をされているのか、住んでいる人々一人ひとりに愛情を持たれ、そして何とか豊かな地域をつくっていかうと努力をされているんだということに、私自身も認識を深めたところでございます。どうか皆さん頑張ってください。いや一緒に頑張ってください。

平成二十一年十一月十八日

衆議院議長 横路孝弘